

鳴かないホトトギスの対処法

梗概

某所で句会が開かれた。

お題は「鳴かずのホトトギス」。

参加者である織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、金子みすゞの四人は、お題に従ってそれぞれの俳句を発表していく。

人物

織田信長

豊臣秀吉

徳川家康

金子みすゞ

○原っぱ

本陣が設営されている。

○本陣の中

陣幕に囲まれた空間に卓子が一つ。

鎧甲を身につけた織田信長、豊臣秀吉、

徳川家康、そして着物姿の金子みすゞの

四人が向かい合って座っている。

画面に以下のテロップが表示される。

「お題 鳴かぬのホトトギス」

織田、三人の顔を見回し、

織田「皆のもの、書き終えたな」

三人、頷く。

織田「では早速発表と参るが、順番はいかが
しよう」

豊臣「家康殿。いかがでしょうか」

徳川「(にこにここと) 信長殿、秀吉殿、拙者、
女、の順でよろしいかと」

織田「うむ」

織田、手元を見下ろし、

織田「おや？ 我の短冊がない」

豊臣「私が持っております」

豊臣、懐から短冊を出す。

豊臣「信長様。暖めておきました」

織田「（にやり）猿め。いつの間に」

織田、短冊を受け取り、立つ。

織田「（堂々たる声で詠む）鳴かぬなら殺して

しまえホトトギス」

金子、露骨に顔をしかめる。

豊臣「うまい！」

豊臣、拍手する。

豊臣「さすが信長様。信長様の合理的なお考

えをよく表われておられます。なあ家康殿」

徳川「（にこりと）同感にござります」

織田、誇らしげに座る。

豊臣「次は私の番ですな」

豊臣、短冊を手にして立つ。

豊臣「鳴かぬなら鳴かせてみようホトトギス」

金子、無表情。

織田「（呆れる）いかにも猿らしい句だな」

徳川、笑顔で頷く。

豊臣、座る。

豊臣「さ。家康殿の番ですぞ」

徳川、短冊を手にして立つ。

徳川「鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス」

金子、無表情。

豊臣「うまい！」

豊臣、拍手する。

豊臣「いやあ。家康殿の辛抱強さが表れている見事な句ですな」

徳川「(満更ではない)」

徳川、座る。

織田「女、読め」

金子、短冊を手にして立つ。

金子「鳴かぬけどみんなちがってみんないい」

織田、豊臣、徳川、絶句する。

織田「(声を震わせ) …女、なんと申した？」

豊臣「も、もう一度読んで差し上げろ」

金子「鳴かぬけどみんなちがってみんないい」

織田「認めん！」

織田、金子に詰め寄る。

織田「ちがっていいはずがない！」

豊臣「そ、そうじゃ。第一ホトトギスの季語
を使っただけではないか！」

織田、刀を抜き、

織田「斬る！」

豊臣、慌てて織田をとめる。

その傍らで、家康、金子の短冊を見て青
ざめている。

ナレーション「この時、金子の才能に恐れを
なした家康は脱糞していた」

○家康の肖像画

ナレーション「その後、戒めのために書かせ
たのがこの「しかみ像」であることは周知
の通りである」

(おわり)